

香 川 県

(香川県農政水産部農業経営課 香川綾香)

1. 新病害虫の発生

(1) コムギ萎縮病 (S BMWV ; *Soil-borne wheat mosaic virus*) (令和4年3月4日特殊報)

令和3年2月、中讃地域のコムギ圃場において、葉の黄化及び萎縮症状を呈する株が見つかり、農研機構北海道農業研究センターに同定を依頼したところ、本県では未発生のコムギ萎縮ウイルス (S BMWV ; *Soil-borne wheat mosaic virus*) によるコムギ萎縮病と診断された。国内では、北海道で発生が確認されている。なお、本病と症状が似ており本州以南で広く発生しているムギ類萎縮ウイルス (J S BMWV ; *Japanese soil-borne wheat mosaic virus*) は、本ウイルスの近縁種であり以前は同種とされていたが、現在はS BMWVから独立し、別のウイルス種として扱われている。

(2) タバコノミハムシ (令和4年7月12日特殊報)

令和4年6月下旬に中讃地域のナス栽培圃場及びジャガイモ栽培圃場において、葉を食害するハムシ類の成虫が確認され、農林水産省神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、本県では未発生のタバコノミハムシであると同定された。県内では、主に減農薬、無農薬栽培の圃場で発生が確認されており、通常の薬剤防除を実施している圃場での被害の発生はほとんど確認されていない。

(3) キュウリ退緑黄化病 (令和4年7月22日特殊報)

令和4年6月上旬に西讃地域のキュウリ栽培圃場において、葉に退緑・黄化症状を呈する株が確認され、病害虫防除所において遺伝子診断により、ウリ類退緑黄化ウイルス (CCYV) であることが判明した。本病は、国内では、九州全県や中国・四国地方、関東地方等の計23府県で発生が確認されているが、本県での発生が確認されたのは初めてである。

2. 水稻

(1) いもち病

早短期水稻では、7月上中旬から葉いもちの発生

が認められ、一部地域で天候の影響などにより薬剤処理の遅れが見られたことから、発生量は平年よりも多く推移した。穂いもちの発生量は平年並みであった。

普通期水稻では、葉いもちは7月上中旬から発生が認められ、一部地域で天候の影響などにより薬剤処理の遅れが見られたことから、発生量はやや多く推移し、穂いもちの発生量は多かった。

(2) 紋枯病

早短期水稻では、例年よりもやや早く7月上中旬に発生が認められ、7月上中旬から下旬の発生量は平年よりも多かったが、その後は平年並みで推移した。

普通期水稻では、7月下旬に発生が認められ、その後、8～9月にかけて気温が高かったことから、9月中旬の発生量はやや多かった。

(3) セジロウンカ

予察灯では平年よりもやや遅い7月第4半旬に誘殺が認められ、誘殺数はおおむね平年並みからやや少なかった。

早短期水稻の圃場では、8月上中旬に発生が認められ、発生量は平年よりやや少なかった。

普通期水稻の圃場では平年と同様の時期である7月下旬に発生が認められ、その後、8月にかけて発生量は平年並みで推移していたが、9月上中旬の発生量は多かった。

(4) トビイロウンカ

予察灯では平年より早い8月の第2半旬に誘殺が認められた。8月の誘殺数は平年よりやや多かった。

早短期水稻及び普通期水稻の圃場では、8月上中旬に発生が認められ、発生量はやや多く推移した。

(5) ツマグロヨコバイ

予察灯では5月第5半旬に誘殺が認められた。5月以降の誘殺数は全般的に平年より低く推移した。

早期水稻圃場での発生量は平年よりやや少なく推移した。

普通期水稻圃場での発生量は平年より少なかった。

(6) 斑点米カメムシ類

予察灯では、クモヘリカメムシおよびホソハリカメムシ、シラホシカメムシ、アカヒゲホソミドリカスミカメが平年よりやや多く推移した。水稻圃場での発生は、早短期水稻・普通期水稻ともに平年並みであった。

(7) コブノメイガ

予察灯では誘殺が認められなかった。

早期水稻では、平年よりやや遅い7月上中旬に発生が認められ、発生量は平年並みであった。

普通期水稻では7月下旬に発生が認められ、8月上中旬の発生量は平年よりやや少なかった。

(8) その他病害虫

5月下旬に小麦上から採取したヒメトビウンカの幼虫の保毒虫率は簡易ELISA法で9.8%と平年よりやや高く、また、普通期水稻における本田初期のヒメトビウンカの発生量もやや多かった。

縞葉枯病は、早短期水稻及び普通期水稻ともに、発生量は平年並みであった。

3. 果樹

(1) カンキツ・そうか病

発生時期は、葉及び果実ともに平年より早かった。発生量は、葉は5月から8月に、果実は6月から8月にかけて平年より多かった。

(2) カンキツ・黒点病

葉、果実ともに生育期間中の発生量は少なかった。発生時期は平年より遅かった。

(3) カンキツ・かいよう病

一部地域の雑柑類で発生を認めた。発生時期は平年並であった。

(4) カンキツ・ミカンハダニ

発生量は、7月がやや多く、9月が多かった以外は平年並かやや少なかった。発生時期は平年並であった。

(5) カンキツ・アブラムシ類

発生量は、4月から6月までやや少なかったが、7月から9月は平年並であった。発生時期は平年並であった。

(6) モモ・せん孔細菌病

葉において、4月に平年並の時期に発生が見られ、5月まで発生量は多かった。果実では発生が見られなかった。

(7) モモ・モモシンクイガ

被害を認めなかった。

(8) モモ・ナシヒメシンクイ

新梢において、5月に平年並の時期に発生が見られ、その後9月まで発生量はやや少から平年並で推移した。

(9) モモ・モモノゴマダラノメイガ

被害を認めなかった。

(10) ブドウ・晩腐病

発生を認めなかった。

(11) ブドウ・べと病

トンネル栽培ピオーネにおいて、平年並である6月に葉で発生を認め、発生量は平年並であった。その後、発生量はやや少なく推移した。

(12) ブドウ・灰色かび病

発生を認めなかった。

(13) カキ・炭疽病

7月までの生育期間中の発生量は平年より少なかったが、一部地域で8、9月の発生量が多かった。

(14) カキ・カキノヘタムシガ

6、7、9月の発生量はやや少なかったが、8月の発生量は平年より多かった。発生時期は平年と同様であった。

(15) カキ・フジコナカイガラムシ

一部産地で4月から発生は平年より早く、発生量も多かったが、8月以降、ほぼ全産地で果実での寄生果率が高くなり、発生量は多く推移した。

(16) 果樹共通・カメムシ類

予察灯での誘殺開始時期は平年より早く、4月以降、誘殺数は多く、9月中旬まで平年値を大きく上回った。被害の発生量は、カキで多く、ナシでやや多かった。

4. 野菜

(1) キュウリ・べと病

冬春キュウリでは発生を認めなかった。

夏キュウリでは、平年同様6月から発生し、やや少ない発生量であったが、7月には少ない発生量となった。

秋キュウリでは、発生を認めなかった。

(2) キュウリ・うどんこ病

冬春キュウリでは発生を認めなかった。

夏キュウリでは、平年同様6月から広範囲に発生したが発生葉率はやや低く、平年並の発生量であったが、7月には減少し、やや少ない発生量となった。

秋キュウリでは、平年同様9月から発生し、多い発生量となった。

(3)キュウリ・褐斑病

冬春キュウリでは、近年は発生を認めないか少発生の年が続いており、本年も発生を認めなかった。

夏キュウリでは、平年よりやや遅い 7 月から発生し、やや少ない発生量であった。

秋キュウリでは、平年同様 8 月から発生し 9 月までやや少ない発生量で推移した。

(4)キュウリ・アブラムシ類

冬春キュウリでは、平年同様 4 月から発生し、5 月には発生面積が急激に拡大した。6 月には虫数が急激に増加しやや多い発生量となった。

夏キュウリでは、平年同様 6 月から発生し、平年並の発生量であったが、7 月にはやや少ない発生量となった。

秋キュウリでは平年同様 8 月から発生し、やや多い発生量となった。

(5)タマネギ・白色疫病

早生栽培では発生を認めなかった。

中晩生栽培では平年同様 2 月に発生を認め平年並

の発生量であった。

(6)タマネギ・べと病

早生栽培では、平年より早い 1 月から発生し、やや多い発生量で推移した。

中晩生栽培では平年よりやや早い 3 月から発生し、平年並の発生量で推移した。

(7)タマネギ・ネギアザミウマ

早生栽培では、平年同様 1 月から発生し、発生量は平年並で推移した。中晩生栽培では、平年よりやや遅い 2 月から発生し、発生量は平年並で推移した。

(8)春レタス・灰色かび病

平年同様 3 月から発生し、その後発生量は増加せずやや少ない発生量で経過した。

(2)春レタス・菌核病

平年同様 3 月から発生し、その後発生量は増加せずやや少ない発生量で経過した。

(3)春レタス・アブラムシ類

平年同様 4 月から発生し、やや少ない発生量となった。

令和4年度 主要病害虫発生状況(香川県)

単位：ha

作物名 (作付面積) 病害虫名	発生面積	摘 要	作物名 (作付面積) 病害虫名	発生面積	摘 要
早短期水稻 (5,856)			モモ (185)		
葉いもち	1,301	多	せん孔細菌病	174	多
穂いもち	976	並	モモシンクイガ	0	並
紋枯病	2,277	並	ナシヒメシンクイ	185	並
ばか苗病	0	並	モモノゴマダラノメイガ	0	並
もみ枯細菌病	0	やや少	ハダニ類	175	多
稲こうじ病	0	並	ブドウ (171)		
ニカメイガ	0	並	晩腐病	0	並
セジロウンカ	325	やや少	べと病	114	並
トビイロウンカ	325	やや多	灰色かび病	0	並
ヒメトビウンカ	5,856	多	カキ (162)		
ツマグロヨコバイ	2,603	少	炭疽病	20	やや少
斑点米カメムシ類	5,499	並	カキノヘタムシガ	20	やや少
コブノメイガ	1,031	並	フジコナカイガラムシ	101	多
イネミズゾウムシ	3,781	やや少	冬春キュウリ (14)		
普通期水稻 (4,941)			べと病	0	並
葉いもち	2,471	やや多	うどんこ病	0	並
穂いもち	899	多	褐斑病	0	並
紋枯病	3,369	やや多	アブラムシ類	14	やや多
ばか苗病	0	並	ミナミキイロアザミウマ	2	並
もみ枯細菌病	0	並	夏秋キュウリ (73)		
稲こうじ病	0	やや少	べと病	4	少
ニカメイガ	0	並	うどんこ病	28	やや多
セジロウンカ	2,695	多	褐斑病	8	並
トビイロウンカ	449	やや多	アブラムシ類	50	並
ヒメトビウンカ	4,717	やや多	ミナミキイロアザミウマ	56	並
ツマグロヨコバイ	3,818	少	タマネギ (185)		
斑点米カメムシ類	1,298	並	白色疫病	11	並
コブノメイガ	1,348	少	べと病	55	やや多
イネミズゾウムシ	898	並	ネギアザミウマ	138	並
ムギ類 (3,180)			春レタス (95)		
うどんこ病	0	並	灰色かび病	24	やや少
赤かび病	0	やや少	菌核病	12	やや少
かんきつ (1,368)			アブラムシ類	32	やや少
そうか病	147	多	ヨトウガ	0	並
黒点病	196	少	ハスモンヨトウ	0	並
かいよう病	5	並	きく (44)		
ミカンハダニ	330	並	白さび病	23	やや多
アブラムシ類	456	並	アブラムシ類	3	やや少
なし (33)			アザミウマ類	23	並
黒斑病	12	多			
黒星病	6	多			